

一人一人が輝く未来

佐世保市立祇園小学校 五年 吉浦 心愛

私は、今まで、男女の平等について考えた
ことかありませんでした。だから、どのよう
なことが男女の平等と言えるのかピンときま
せん。そこで、お父さんとお母さんのことに
置きかえて考えてみました。

私の家は、お母さんが専業主婦でお父さん
が外で働いています。ですが、家事のほとん
どをお父さんがします。例えば、毎日の食器

洗いやせんたくは、お父さんの仕事です。他
にも週末になると、お風呂・トイレ・部屋の
そうじはもちろん、ゴミ出しや私の勉強まで
見てくれます。お母さんは、家族のスケジュ
ール管理と料理だけします。お父さんは、一
度、料理にも挑戦してみましたが、あまり上
手にできませんでした。それ以来、お母さん
が、作ってくれています。お母さんは、得意
なことしかしないので、お父さんは、外での
仕事に加えて、家の仕事まで、かんばってい

ます。私も、毎日配せんをするなどの、自分
かできることをしています。

私の祖父母の家では、おじいちゃん、あ
まり家事をしません。たった一つ、してくれ
るようになったのは、そうじ機をかけること
ですが、それもここ最近のことです。おばあ
ちゃんだって働いているのに、家事の全てを
こなしていて、大変だなと思います。そう、
そう考えると、私の家族は、少し平等ではな
いように見えますが、お互いに一人一人がで

きることをしてみんなで助け合っています。
私は思ったより、男女共に平等であり、性別
での差が少ない家庭で過ごしていることに気
づきました。

次に、私は、世の中に目を向けてみることに
しました。この前、タクシーを使って、塾
まで行ったとき、女性の運転手さんでした。
めずらしいなと思って、お母さんに話して
みると、

「女の人の方が、夜でも、安心して乗れるか

ら、もつと増えてくれるといいな。

と言っていました。確かに、いろいろな話をしてくれて、優しい口調で楽しい時間でした。

世界の国々と比べると、日本は、女性の地位が低いと、お父さんに教えてもらいました。日本に少ない女性の政治家や会社の管理職も、海外にたくさんいます。また、以前、医学部の試験で、女性の点数を下げ、合格者を減らしている大学もあると知りました。

私は、日本でも、男だから、女だからという理由で、やれることの幅が縮まらない世の中になつてほしいです。そのためには、一人一人が、他人をそんな重し、認め合い、たれが何をしても、おかしくないと、世界中の、全ての人が、気づいてくれることを願っています。

私は、自分らしく輝ける仕事につくために、今できることは勉強だと思い取り組んでいます。夢の実現に向けて確実に近づくために、苦手なことからもにげずにがんばりたいです。